

2024 年度 第 6 回理事会 議事録 2024.12.13

日時：2024 年 12 月 13 日（金）19：00～21:10

開催方式：対面開催

場所：神奈川県横浜市中区真砂町 3-33 商業ビル「セルテ」10 階 102 会議室

出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、吉本雅一（副会長）、玖島弘規（事務局長）、望月強併、
奥原孝幸、野本義則、澤口勇、遠藤陵晃、青木啓一郎、佐々木秀一、神田崇央、神保洋平、金山桂、
佐藤隼、佐藤範明（16 名）

出席監事：錠内広之（1 名）

欠席理事：山勢健太郎（1 名）

欠席監事：野々垣睦美（1 名）

I. 会長より挨拶

先日は、臨床大会お疲れさまでした。大変盛況で今後大会長の木村先生からご報告頂けるかと思います。
本日も多くの議題がありますのでよろしくお願いします。

II. トピックス

オレンジイノベーションプロジェクト（経産省事業）への参画パートナー団体募集について

（神奈川県庁の井上様よりプロジェクトについてご説明を頂いた。
経産省と連携し、認知症当事者と商品・サービスを開発する企業が対話しながらより良い製品開発を行うもの。
①認知症当事者のニーズと②企業側の認知症当事者が使いやすい製品の開発・改善という両軸があり、
この取組に参画する認知症当事者の募集等にご協力いただくパートナー団体として、神奈川県作業療法士会様にも
ご参画いただけないか。
未病の概念から様々な事業を実施している。政策としてヘルスケア産業も取り組んでいる。
事務局として日本総研が担っている。神奈川県の高齢福祉課も参画している。
神奈川県作業療法士会もパートナー団体として参加して頂きたい。
（日本総研高橋様より概要のご説明を頂いた）
パワーポイントを使用しながら事業の概要について説明。
（錠内監事）
OT 士会として当事業にどのような参画が出来るか？
（井上様）
ネットワーク作りや認知症の方と一緒に参画して頂き、認知症の方の支援に携わって頂きたい。
具体的に何をするかは決まっていないがパートナー団体として登録して頂きたいと考えている。

III. 審議事項

1. 後援依頼について（事務局）

- ・第 22 回神奈川県介護支援専門員研修大会への後援依頼
→賛成多数で承認

2. 部員申請について（学樹部・学会評議委員会）

- 賛成多数で承認

3. 永年会員申請書の変更について（事務局）

→賛成多数で承認

4. 補正予算の申請について（MTDLP 推進委員会）

（奥原理事）

補正予算申請書の内容を説明。

参加者の増加から演習の時間が長く、講師謝金の増加が必要。

また事例検討会の謝金・会議費の増加が予想される。

→賛成多数で承認

IV. 2025 年度事業計画予算案プレゼンテーション

（事務局）

例年通りの事業だが予算はプラス 100～150 万円。内訳としては人件費、保険料、光熱費の値上がりから上がっている。

（財務部）

例年と変わりなし

（学術部）

新規事業はなし。講師謝金の増加から予算が増加している。

2 回実技の研修会は対面での実施予定。

（教育部）

臨床実習指導者講習会の謝金について 1 日拘束で 2 万円だったのを 4 万円に変更。

対面での指示があった際に対応できるよう予算を計上している。

（青木理事より）

協会では、助手＋講師の扱いで協会と比べ謝金が高額になっている。

（奥原理事より）

講師の扱いか、助手の扱いになるかは今後検討が必要。

（望月理事より）

ポイント申請班の会議費については、実務になるので会議費の計上は難しい状況。

（奥原理事より）

実務が膨大な時間がかかっている。福利厚生費の支給対象を検討する必要がある。

（広報部）

2023 年度と同額。会員数の横ばいで発送数は変わらず。

養成校の入会案内は広報部、学生会員は福利部が担当予定。

（福利部）

新入会員オリエンテーションや会員間の交流機会は継続して行なっていく。

（地域リハビリテーション部）

新規事業として、スポーツ事業、協会でも動いている事業を地域リハで実施していく。

OT 協会の 5 歳児検診についても、こども班内で実施予定。

（制度対策部）

新規事業については、自動車教習所の先生に対して OT についての研修を実施予定。

（規約委員会）

昨年と変更なし。

（ウェブサイト管理委員会）

昨年度と継続。

LINE 有料プランには移行済み。月 1 万 5000 円のプランで予算計上している。

次年度 SNS 班も作成。通知数も増加はありえるため、それに対応できるようにする。

(学会評議委員会)

例年と同様の予算に加え、J-stage に掲載のための予算を計上。

(MTDLP 推進委員会)

研修会や事例検討会の回数が増加しており、それに伴い講師謝金と事例の添削のための会議費は増加している。

補正予算で申請していた経緯があり、次年度は年度予算に計上している。

事例報告登録については、増加傾向も収益はあまりない。

(認知症対策委員会)

例年通り。講師謝金・会議費の増加に伴い予算も増加。

(地域包括ケアシステム推進委員会)

予算の変更はなし。横浜市の事業状況により補正をお願いする可能性がある。

(エリア化推進委員会)

新規として各エリアでの事業検討・サポートなどの事業に変更していく。

(選挙管理委員会)

例年通りの予算を計上。

(リハ手帳関連)

来年度春から運用開始。会議費+広報(チラシ・学会のブース)などに予算をつけたい。

(澤口理事より)

新規入会の会費が取れない分の予算について試算した方がよいのではないか。

状況に応じて会議費 1000 円➡800 円に戻してもよいかと思う。

V. 報告事項(各部署・理事・三役)

1. エリア化推進委員会

(1) 令和 5 年度地域支援活動助成金事業について

資料参照

県士会として助成金を支給しているため、チラシやポスター等に後援等を入れるように依頼しても良いのではないか。今後ルール等も検討していく。

2. 組織改編について(神保会長)

資料参照

現在はプレ期間であり、3 月までに組織図を確定し総会資料を作成していく。

地域社会振興部より、部の下部組織は課にしないかと提案あり。

2025 年の総会で決定していく。決定以降は新組織図で運用。

総会までは前組織図での運用となるため、会計処理には注意が必要。

3. 4 か年計画について(神保会長)

資料参照

4 か年計画の振り返りを作成。

2023-2024 年度の振り返りを実績として Excel データの作成していく。

4. よんぱちについて（田中副会長）

資料参照

【その他報告部署・理事】

（青木理事）

臨床大会参加総数 144 名。内訳として、県士会員 110 名、非会員 28 名（詳細不明）、学生 5 名、PT1 名。
次回理事会で木村大会長から総括を頂き、次回大会長の小砂大会長も参加予定。

（金山理事）

臨床大会県士会ブースを設置し、2 名の非会員に入会案内が出来た。

（神田理事）

臨時社員総会での議案がすべて承認された。Xdrive にアップしている定款も修正していく。

（田中副会長）

1 月に再度事業計画・予算案の検討を行う。再度各部署において予算案の見直しと調整をお願いしたい。

（澤口理事）

収入で助成金の検討も必要。

（野本理事）

全体で予算をどの程度下げればいいのか。

（望月理事）

可能であれば 2023 年度の修正の決算額まで抑えたい。新規事業や業務変更は適宜調整していく。

VI. 監事より

以前は企画調整委員会があり、現在は三役がその役割を担っている。業務の進行度をフィードバックし、最終的に事業の遂行度を各部に伝えていた。各部署に対しての業務評価が必要であり、評価がなければ議論にならない。業務量の評価をしたうえでの予算付けの検討が必要となる。

議事録署名人	議長：	神保 武則	印
	理事：	吉本 雅一	印
	理事：	遠藤 陵晃	印
	監事：	錠内 広之	印